

全国学力・学習状況調査の結果について

初秋の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校教育に対し、ご理解・ご支援をいただきありがとうございます。

さて、4月に全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。今回の結果から把握した各児童の学習や生活における実態をもとに、今後の指導内容や指導方法の改善・充実を図ってまいります。なお、これらの内容については、学校ホームページにも掲載します。

I 教科に関する調査

国語 本校平均正答率 68% 広島県平均正答率 69% 全国平均正答 67.2%

【重点課題】

- ①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることに課題がある。
- ②原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。

【重点課題に対応した改善する指導内容及び方法】

〈①について〉

- ・低学年より大事な言葉に線を引く指導を行い、関係のある言葉どうしを繋げる練習をさせる。
- ・クイズ形式や穴埋めのワークシートを活用し、大事な語や文を選び出させる。
- ・指示語が何を指すのかを考えさせたり、写真と絵をつなぐことをさせたりして、資料や言葉の関連性を見付けられるようにしていく。
- ・段落のまとめ、相互の関係を捉えさせるとともに、何をどのように比べているのかを読み取らせる。
- ・段落のキーワード、要約等を練習させ、それを補足する情報にはどんな文章や資料が使われているかについて考えさせる。
- ・社会・理科等の他教科で、表とグラフから読み取るなど、複数の資料から読み取る活動を取り入れるようにする。

〈②について〉

- ・発表したり話し合ったり、書いたりなど表現する場面において、自分の考えやそれを支える理由や事例を意識させる。
- ・総合的な学習の時間で新聞を作成する時など、他教科においても、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫させる。
- ・自分の考えを述べる際には、①その考えに至った根拠②立証するために必要な資料や数値（アンケートなど）③相手に分かりやすい表現になっているか等を意識させる。

【重点課題】

- ①高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や図を用いて記述することに課題がある。
- ②伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

【重点課題に対応した改善する指導内容及び方法】

〈①について〉

- ・具体物を使って、図形に慣れ親しむなど算数的な活動を通して、算数用語をしっかりと理解し、使えるようにしていく。
- ・特に回転・ずらすなど、子どもに応じてICTも使いながら定着させる。
- ・関係性や定義・式について、答えのみではなく、なぜそうなるのかを説明する活動を授業の中で取り入れる。

〈②について〉

- ・大事な箇所には下線を引くなどして図と問題文を対応させながら考える力を付けさせる。
- ・表に書くと分かりやすくなるのが分かるなど、算数のいろいろな表現の仕方についてよさや方法を知らせていく。
- ・場面絵から数量の関係を視覚的に捉えさせる。
- ・絵から関係図をつくらせる。
- ・図やメモを使って自分で説明する力を付ける。
- ・理由を説明させる際には、キーワードを示す。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

本校結果と全国結果を比較した場合、次の事項は、特に本校児童のプラス面(○)、マイナス面(●)と言えます。

○困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

(本校 80.7% 全国 68.5%)

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

(本校 98.8% 全国 95.9%)

○読書は好きですか。

(本校 85.5% 全国 71.8%)

○友達関係に満足していますか。

(本校 92.8% 全国 90.3%)

●いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

(本校 96.4% 全国 96.9%)

●自分には、よいところがあると思いますか。

(本校 85.5% 全国 83.5%)

(全国結果と比較すると数値としては高いが、約12人の児童が良いところがないと思っている実態が課題)

【課題に対応した改善する指導内容及び方法】

①いじめアンケートを引き続き行い、いじめは絶対いけないことだと指導するとともに、困った時の解決方法について児童と一緒に考えたり、面談を行ったりして、実態の把握に努める。また道徳の授業においても、いじめ問題を取り扱い、普段の生活の中でも指導を継続し、いじめがなぜいけないのかを繰り返し指導していく。

また、いじめ防止月間には、一人ひとりがいじめ防止宣言を行い、いじめを許さないという意識を高める。

②教師の肯定的な声かけや「いいところ見つけ」など全校でのPBS(ポジティブな行動支援)の取組などを通じて、自己肯定感を高めていく。また、道徳などの学習で自分では気付いていない自分のよさを友達から教えてもらって自分に自信がもてるようにする。